

このまち 津市で輝く

Vol.34



技術だけで売れる訳ではない
地域の人に合わせた味が大事

本物とはどういうことか。「菓子の館とね」の先代社長・刀根大士さんは、自問自答を繰り返していた。

家業である津の和菓子店に戻り3代目として昭和51年に後を継ぐ。洋菓子の老舗、東京・ヒサモト洋菓子店で学び、スイスの国立製菓学校やフランスの有名パティシエの下で修行し、本物の洋菓子レシピを引っ提げての「凱旋」であった。しかし、父・清訓さんの作る和菓子の横で、タルトやプチフルを売り始めたが、一向に売れなかった。

「完全なフランス菓子を津で作っても全く売れへん」。1年悩み抜いた末、初心に帰って生クリームから作り直した。当時の日本では珍しく低脂肪にこだわった。生クリームを軽くしてスポンジも軽く。軽さとうまさがマッチしてケーキが飛ぶように売れ出した。

「おいしいか、まずいか決めるのはお客さん。自己満足で作っては駄目。地域に合わせた味を提供するのが商売」

冒頭の答えは、長年愛用している茶碗が教えてくれた。何年も使い続けているのは飽きないから。お菓子も同じ。創業者である祖父と二代目の父が開発した和菓子の一つは、80年以上も続くヒット商品である。店を育ててくれた津の皆さんに恩返しするため、本物を作り続ける。その精神はこれからも受け継がれていく。

本物とは飽きのこないもの お菓子もそうあるべき

PROFILE

1948年2月29日津市生まれ。趣味はスケッチ旅行。車で日本列島3万3,700kmを走破。現在は、製菓学校で講師を務め、未来の菓子職人の育成に尽力しているほか、津市物産振興会のスイーツ部会長として、スイーツ業界から地域を活性化するため、スイーツフェスタなどの開催に向けて精力的に取り組んでいる。

菓子の館とね 取締役会長

刀根 大士 (70)

Hiroshi Tone

座右の銘は

「今日という日は残された人生の第一目である」

学生時代はトランペッター
憧れのスターはニニ・ロッソ



広報つ!

毎月1日・16日発行

- 編集・発行
津市政策財務部広報課
〒514-8611
西丸之内23-1
☎059-229-3111
FAX 059-229-3339
- 印刷
共立印刷株式会社

足元から暖かい、素足で心地いい住まい。【広告】
木のぬくもりと床暖房を組み合わせた暖かい住まいをご提案します。



ユニバーサルホーム 津店 ▲津店詳細はこちらから!
059-223-7001 津市垂水261-1 中日新聞津ハウジングセンター内
営/9:30-17:30 休/第2第3火曜日・毎週水曜日

市財政収入の一部に寄与することを目的とし、裏表紙に広告を掲載しています。なお、掲載している広告内容については津市が保証しているものではありません。

弁護士法人 心

夜間・土日祝相談可(※予約)【広告】
相談料0円(※初回は120分以内)
※12/31-1/3は除く。大層連休中の休業や臨時休業もございます。詳細はHPをご覧ください。

交通事故・後遺障害・過払い金・借金・相続・遺言・離婚・企業法務・労働・刑事(他)

所員弁護士40名以上!

無料診断サービス

津駅 0.5分

平日9時~22時・土日祝9時~18時受付
(12/31-1/3は除く。大層連休中の休業や臨時休業もございます。詳細はHPをご覧ください。)

0120-41-2403
詳細は ⇒ <http://kokoro.law>

広告掲載欄